ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety
Vol.48
編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103－0001
東京都中央区日本橋小伝馬町15－18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640
ホームページhtp//www.kasetsuanzen.or.jp/ Eメールinfo@kasetsuanzen.or.jp

北海道支部　〒004－0015　札幌市厚別区下野幌テクノパーク２－１－14　電話(011)899-3275　ＦＡＸ(011)899-3276
東北支部　〒984－0816　仙台市若林区河原町１－３－24(大和第２ビル１Ｆ)　電話(022)716-6701　ＦＡＸ(022)716-6710
関東支部　〒103－0001　東京都中央区日本橋小伝馬町15－18(日本橋ＳＫビル５Ｆ)　電話(03)3639-1571　ＦＡＸ(03)3639-3980
北信越支部　〒950－0965　新潟市新光町17(日軽ビル１Ｆ)　電話(025)282-1031　ＦＡＸ(025)284-7810
中部支部　〒460－0008　名古屋市中区栄３－25－43(瑞穂ビル２Ｆ)　電話(052)249-7661　ＦＡＸ(052)242-6280
近畿支部　〒531－0076　大阪市西区江之子島１－６－８(シャンピア阿波座103号)　電話(06)6443-5213　ＦＡＸ(06)6443-5214
中国支部　〒730－0016　広島市中区幟町3－55(幟町ゼネラルビル6Ｆ)　電話(082)511-2051　ＦＡＸ(082)227-2720
四国支部　〒760－0055　高松市観光通２－２－15(ダイヤビル本館７Ｆ)　電話(087)812-0131　ＦＡＸ(087)812-0130
九州支部　〒812－0011　福岡市博多区博多駅前４－10－13(奥村第３ビル４Ｆ)　電話(092)472-7000　ＦＡＸ(092)472-7100
各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる 心豊かな国創り

アクセスは安全の良きパートナー

足場は社会資本整備の重要な基礎

馬場国交省東北整備局長てい談

国土交通省東北地方整備局は、厳しくも豊かな自然環境の中で「強く美しい東北」づくりに取り組んでいます。先行型二段手すりや幅木（つま先板）を装備した「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」の的確な実施を全事務所に周知徹底しています。良質な社会資本を整備する前提として建設工事の安全確保があり、その土台となるのが「足場」であると語る馬場直俊局長を訪ね、当組合の小野辰雄理事長、中村竹男東北支部長とてい談していただきました。

国土交通省東北地方整備局長　馬場　直俊氏

小野　建設工事での労働災害のうち、墜落・転落が依然として約半分を占めておりますが、ここがどうしても減らないということはやはり足場に関係しているのです。こうしたなかで、国土交通省が3月末に打ち出した2004年度の工事事故防止重点対策では、直轄工事で設置するべての足場は働きやすい安心感のあるものとし、改善措置機材による場合は、全段に二段手すりと幅木を設置し、手すり先行専用足場型と同等の機能を確保すること、を明確に示されました。さらに足場組立後の有効な点検の実行が評価の対象となっています。

実際に国交省が実施した過去のモデル現場からは死亡事故が起きていません。やるべきことをやれば成果が出ることがはっきりしているだけに、ぜひこれは強くご指導いただければと思っています。

中村　東北支部は東北6県を管轄し設立以来、仮設に起因する災害を防止するため、仮設工事の共同安全監理事業を実施してまいりました。公的資格を取得した方を対象とした仮設安全監理者の特別教育と、仮設安全監理者が行うチェックシートによる現場の安全点検の実施が主な事業となっております。とくに我々組合員が仮設安全点検を実施した現場では事故を起こさせないという意気込みでやっております。

全国仮設安全事業協同組合理事長　小野　辰雄

不適切には罰則強化

馬場　まず前段として、安全な足場機材の供給や足場の安全点検など、仮設に起因する労働災害の撲滅に尽力されておられることに敬意と感謝を申し上げたいと思います。

お話のように建設工事の安全確保、人命優先は基本であり、当局としましても安全管理措置が不適切なものに対しては厳しいペナルティーを課しております。安全を疎かにすることは、企業が自分で自分の首を締めるようなことになりかねません。安全は、直接的に利益を生むものではありませんが、その欠如は企業の存在を揺るがすものとなります。

仮に、一時的であれ安全を疎かにすることがあれば、企業努力で築き上げてきた信用を一瞬にして失ってしまうこともあります。

ただ、東北管内においては残念なことに03年度の直轄工事での工事事故件数は92件あり、統計を取り始めた71年以降それまでで最も多かった00年度よりも9件上回っています。しかし、そのなかで全体の件数に占める墜落・転落の割合は02年度が約2割でしたが03年度では約1割となっています。もっと長期的かつ詳細な分析が必要ですが、03年度に手すり先行工法がモデル工事から標準工法になった効果も出ているのではないかと思っています。

中村　東北地方整備局の足場を採用する現場では、「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」が全面採用され、地方自治体でも宮城県と仙台市で「手すり先行工法」のモデル工事導入が決定、さらに福島県もこの7月から全面導入に踏み切りました。全国でも自治体の「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」の工事採用現場は拡大しております。誠にありがとうございます。

我々は安全な仮設機材を供給することは無論のこと、仮設安全点検を実施することで、事故ゼロの達成を目標に一丸となって頑張りますので、行政機関のご支援を今後も継続して賜りたいと思います。

馬場　足場は文字通り、職人にとっては本当の命綱にあたるわけですから、とくに十分な安全対策が必要だと認識しています。直轄工事の建設工事事故防止のため、発注者である整備局が実施する一番目の対策項目として、墜落事故防止の観点から、直轄工事で設置する足場は二段手すりと幅木の機能を有した「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」とすることを各事務所の監督職員などに通知して周知徹底しているところです。また直轄だけではなく、工事の安全確保を大前提とした良好な社会資本整備は国及び地方公共団体はもちろんのこと関係業団体も変わらないはずです。その観点から、当局においては、毎年、安全安心をテーマにしたものも含めた有意義な新技術を展示・紹介し広く普及を図るイベントを開催するなど、良いものは積極的に広めていく努力をしています。

小野　局長が一昨年度、愛知県の建設部長時代に先行型二段手すりと幅木のモデル工事を実施し、明確に方向付けをされました。本当にこれが契機となって、全国に広がりました。

中村　東北支部としても東北各県に支所を設けまして組合の一番の目標である事故をなくすために現在まで191人の仮設安全監理者を育成し、チェックシートによる現場の安全点検を実施しています。02年度は568件、03年度は487件の現場で実施しており、今年度は700件を目標に組合員が一丸となって現在作業に入っています。

組合の活動は国の施策と一致

馬場　たしかに足場が適切に使われていないと何の意味もありません。ハード面とソフト面の両輪がうまくかみ合って初めて安全が確保されます。

ハード面では二段手すりと幅木の機能を有しているか、ソフト面では足場の点検・管理が適切に実施されているかが大事です。組合には安全な足場の安定した供給と、的確な安全点検の手法を広める努力を今後とも行っていただきたい。組合の活動は、国の施策に沿ったものであり、工事の安全確保を支えるものと期待しています。

中村　昨年9月に仙台で「東北仮設安全大会」を盛大に開催させていただきました。当時の浜口局長はじめ多くの来賓の方々から期待と激励を込めた祝辞をいただき、パネルディスカッションは内容のある有意義な発言の場として参加者の多くから好評の声を聞くことができました。

「見える安全、感じる安心」のスローガンを仙台から全国に発信し、労働災害撲滅の理念を表明したわけですので、それを今後実現していくためにも、プロとしての自覚を持って事故をなくすために一生懸命対策を練っていきたいと思っております。

馬場　組合のやっておられる足場というものは我々が目指している高品質で適正な社会資本ができる土台、基礎の基礎だと思っています。その土台、基礎が確実にその現場で生かされるように、現場の意見も汲み上げ、さらにご努力願いたいと思います。また、それをやりやすくするためには発注者側でどうすればいいのかということも遠慮無くおっしゃっていただければと思っています。昨年、社会資本整備重点計画が策定されまして、東北の場合は「強く美しい東北を目指して」という基本目標で進めようとしていますが、そういうことも含めて我々と組合は良き安全のパートナーでありますし、足場は実際の社会資本整備を行う上での重要な基礎部であることが今回の話題でありテーマだと認識しています。一緒になって目的に着実に近づけるようにしたいと思います。

小野・中村　いい言葉を頂きました。足場は建設工事の土台であり基礎だと。本当にありがたいですし、やりがいがあります。本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

全国仮設安全事業協同組合東北支部長　中村　竹男

企業経営の根幹は“安全”にあり

的確な安全点検の推進に期待

国土交通省地方整備局の事務所を訪ねて⑥

関東地方整備局京浜港湾事務所

「手すり先行工法に関するガイドライン」のポイントは、先行型二段手すり及び幅木（つま先板）の同等な機能が設置されているものを使用し、高所作業による墜落災害等を防止することにあります。「平成16年3月に発行された国土交通省港湾局編集の『港湾工事共通仕様書』には枠組み足場の設置を必要とする場合は『手すり先行工法に関するガイドライン』（厚生労働省）によることが明記されており当然足場を使用する所では手すり先行工法によることになります」（立野雅人横須賀事務所長）。

京浜港湾事務所は、京浜港（横浜・川崎地区）及び横須賀港を管轄し、当該港の港湾整備事業を担当しています。もともと手すり先行足場を最初に実施したのは港湾工事であり、「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」の実施を先んじた経緯があります。その安全性が認められ、国土交通省、厚生労働省、農林水産省などの関係行政機関の努力で一気に普及が進んでいます。

作業員が働きやすい環境を構築

現在では、国はもちろんのこと地方自治体では23都道府県でモデル工事もしくは全面的に「手すり先行工法」の適用が予定され、今後とも政令指定都市ほか市町村レベルでも普及に拍車がかかる勢いです。

実際に使用している現場においても「非常に安心感がある。作業員も伸びのびと作業が出来る。今後はコスト面からの改良と使いやすいものにして頂きたい。そうすれば普及はより一層早くなる」と元請けからの声もあります。

「私どもの馬堀海岸地区護岸本体工事などで実際にこの足場を見て動きやすく安全で安心感のあることが理解できます。ただ、設置、解体時の効率的な作業ができるように改善する必要もあると思います」（立野所長）。

「京浜港湾事務所では、工事安全連絡会議を設置しており、月1回の安全パトロールや現場での安全点検を実施しています。請負者においても事故によるリスク意識が高くなっており、徹底した安全管理が図られている状況です。引き続き建設工事の事故防止のため、関係者一体となった安全活動を行って、足場材を含めた安全の重要性を周知する必要があると痛感しております」（立野所長）。

10月26日に関東安全大会　仮設の体感コーナーも

当組合の関東支部（杉山信夫支部長）は、10月26日にさいたま市の大宮ソニックシティで、関東仮設安全大会を開きます。式典は午後1時に開会し、各行政機関の方々にあいさつをたまわり、引き続いて「手すり先行工法働きやすい安心感のある足場の定着をめざして！」をテーマにパネルディスカッションを行います。

コーディネーターは杉山支部長でパネラーは各行政の出向機関や地元の発注機関の方々の出席をそれぞれ予定しています。

イベント広場では、午前11時から午後4時まで、安全な仮設機材の体感コーナーを設けたり、安全な足場機材や仮設資材を展示します。

仮設安全時評

建設現場はもとより、工場でのけがについて、わたしは必ず翌日、軽症であってもけがをした作業者に「大丈夫か」と一声かけることにしています。なぜならば後遺症も残っているかも知れませんし、そういう細かい心遣いが必要であると思います。

先日、当協会で労働災害実態調査を実施しましたが、挟まれ・巻き込まれのほか、飛来落下や墜落転落も多いです。鉄骨関係の仕事であれば、やはり高所からの作業が多いため、貴組合が推奨されている「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」は、極めて現場作業で有効であると考えています。足場をきちんとすることは一種の保険であり、そうすることによって一時的にはコストが上がりますが事故防止により、支払う保険料も低減されることとなりますし、トータル的なコストは削減されることとなります。

先日、鋼構造ジャーナルの企画で、奥田修一国土交通省大臣官房営繕部長、貴組合の理事長と当協会の多田会長で三者てい談のご紹介がありましたが、特に着目したのは、貴組合が現場で安全点検を実施していることです。災害撲滅のため、無料で推進していることに大きな感銘を受けました。

ところで、当協会での今年度の安全標語は、『「危ないぞ」と言える職場に事故はなし！』が最優秀作となりました。ここで重要なことは、気楽にみんなが声をかけられる職場環境を構築することです。それには、普段の人間関係が非常に重要なこととなるでしょう。現場で指導する場合は単に怒っているだけでは駄目です。作業員の意識を向上させるよう導くように話し掛けることがポイントです。そして、相手も注意されれば、「ありがとう」と感謝されるような気持ちを持つことが重要です。

「安全」は究極の「人間愛」

（㈳鉄骨建設業協会安全衛生委員長
（松尾橋梁千葉工場安全衛生室長）　曽我　幸一

「安全」というものは、究極の「人間愛です」。現場を愛し、作業員を愛し、仕事を愛する気持ちがなければ務まりません。

この千葉工場は、船橋労働基準監督署の所轄ですが、この傘下に労働基準協会の設置があります。安全週間準備期間月間中に「安全意識高揚」に向けての講演の依頼がありました。テーマは、「ゼロ災は明るい職場づくりと思いやり！」の話をさせて頂きましたが、その中でも「トップの意識」が重要であるという内容について話しています。安全衛生に力を入れている会社では、「安全衛生部」というものを設置し、安全活動を推進していますが、そこではトップの理解は欠かせません。また、このような安全関連の部署は役員自らが陣頭指揮を取り、強い意識を持って災害撲滅に望まなければ目標達成は困難であります。

さらに、付け加えたいことは、道路交通法が改正され飲酒運転に関しては多額の罰金が課せられるようになりました。それに比べて、安全衛生法に違反しても、それほどの罰金は課せられません。そのため、年末には建築現場において一斉指導をしても、毎年のように新聞紙上には、安全衛生法違反が半分という記事が掲載されています。思い切って、現場の安全衛生法違反に関しては多額な罰金を支払うような仕組みを作り、安全に関してはもう少し法律を厳格にしても良いと思います。

ズーム　アップ

重点施策を目標達成

全国仮設安全事業協同組合中国支部長
三宅　弘子

「前支部長の方針を受け継ぎ、組合重点施策の目標達成をめざし、組合員全員の力を借りて微力ながら全力投球します」。吉村譲支部長の後任として2代目支部長に就任、力強く基本方針を述べています。

中国支部は、中国5県22組合員で構成、活動の柱である手すり先行工法の普及にも積極的に取り組み、国土交通省中国地方整備局管内での採用実績は2003年度で71件にまで伸びました。「全工事での採用を目標に件数の増大を要請していきます」というそうの普及に自信をみせています。

これまでの活動が実を結び、島根県が10月から手すり先行工法の採用を決めたほか、岡山県でも試験的に採用する方針を示しました。「他県や広島市にも働きかけていきたい」と自治体への広がりにも期待しています。

足場組み立て後の安全点検の重要性も訴え続けています。「新たな監理者の育成を含め、安全監理室長を中心に点検内容の質を向上させたい」という言葉にも力がこもります。

組合員一丸となって安全点検実施目標300件の実現をめざしています。「仮設整備・検収安全監理者による経年機材の検収も徹底したい」と事故撲滅に向けた不良品の排除にも力を注ぎます。

新たな展開としては、国、自治体の手すり先行工法採用の増大に備え、中国5県各地に機材を安定供給させる共同事業をスタートさせました。

「将来は中国5県に安全装備機材の共同センターを設立させたい」と意欲を示しています。

趣味は園芸。「四季折々の花を見るのが好き。花を見ると安心できます」とストレス解消にもなっているようです。日建リース代表（広島県東広島市）。広島県出身。

将来は共同センター設立

読者の声

絶対起こしてはならない

絶対起こしてはならない原発で死亡者4名という悲惨な事故が発生した。事故の原因は、配管の劣化による破損。安全点検を実施していれば、防げた事故であり、天災ではなく人災であった。著名自動車メーカーの事故しかりである。

企業は、なぜ事故を起こすのか。常に、経営トップの利益（経済）第一、安全第二という思想の根強さ、根深さを思い知らされる。建設業のトップ、労務セクションのトップも「他山の石」とすべきである。早急に!!

（安全衛生コンサルタント）

作業員が働きやすい環境を構築

わたしは、タイル工ですが、最近は、わたしの会社でも、建物の外壁補修工事が増加しています。国土交通省、農林水産省を中心として、「手すり先行工法」が定着され、二段手すり・つま先板（幅木）が装備される時代になりました。しかし、わたしたち民間工事では、手すり先行工法が義務化されておりません。その理由は、足場に費やす予算が少ないことからです。

過去、わたしの会社でも仲間が足場から落ちて、重傷を負ったケースが数件あります。安全な足場を義務化しなければ、今後とも民間工事での普及は無理だと思います。

（匿名）